

5/8 ヨハネの手紙第一 4章 7-12節 「まず神が私たちを愛してくださった」

小池 宏明 牧師

今日は、主の弟子ヤコブとヨハネを取り上げる。主イエス様は彼らを「雷の子」(マルコ 3:17) と呼んだ。それは、彼らが短気だったからだ。短気ばかりではなく高慢で野心家だった。彼らは、父ゼベダイと共にガリラヤ湖の漁師だった。同じ漁師仲間のシモンと一緒に魚を取っている時、主イエス様から御声をかけて頂き、主イエス様に従って生きる人生が始まった。

*神は愛なり

今回の聖書箇所は、ヤコブとヨハネの内、ヨハネが記した手紙だ。ヨハネは、とても長生きをして、福音書と、三つの手紙、そして流刑の地で黙示録を記している。このヨハネが記した福音書や手紙を読むと、「キリストの愛」について語り「互いに愛し合うように」勧めている箇所がたくさん出てくる。それで、ヨハネは「愛の使徒」と呼ばれるようになった。イエス様と一緒にいる時には、その激しい性格のゆえに「雷の子」とあだ名が付けられたが、晩年「愛の使徒」と呼ばれるような大きな変化を遂げている。ヨハネの手紙第一 4章 10節「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」主イエス様が「先に私を愛して下さった」と言うのだ。「私が神の御子を愛したのではない！ 愛することができない！ 愛するどころか、裏切って来たのだ！」というのがヨハネの本心だと思う。「そんな私を主イエス様は愛して下さった」「宥めのささげ物として自らを供え物にしてまで、愛して下さった！」ここに、神様のご愛が、完全に指し示されたのだ！と明言している。ヨハネは、主イエス様の愛で、愛され続けて来たのだ。イエス様が地上におられた時だけでなく、天に昇られた後も、イエス様に愛されながら生きて来ることができた。それゆえ、彼は兄弟姉妹を愛することができる、互いに愛し合うように勧めることができるのだ。

*創り変えられる希望

主は、今を生きる私たちをも愛して、命を捨ててまで愛し続けてくださっている。そして、私たちは日々、主の深いご愛に生かされ、主は日々、愛する訓練をして下さるのだ。主イエス・キリストの深いご愛に留まり続ける日常の歩みであるように祈ろう。主の愛の犠牲によって、救い出されてもなお、変わらない自分の足らなさ、弱さはなんだろうか？主はそのことをご存知で、主のふさわしい時に、創り変えて下さるのだ。